

## 1

## 日産化学株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日産化学は化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・健康・安全（EHS）」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動（レスポンシブル・ケア活動）を推進している。</li> <li>● 重要課題（マテリアリティ）の一つに気候変動対策を選定し、原材料購入から顧客での使用、廃棄までのバリューチェーンを通じたGHG排出量を把握するため、算定を行っている。</li> <li>● 当社が持続可能な企業であることを示すために、投資家を含むステークホルダーへのESG情報の公開に際し、「パリ協定」に整合した削減目標を設定したい。</li> </ul>
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 算定結果はCDP等の各種CSR関連アンケートの回答に活用している。</li> <li>● ホームページにて公表し、ステークホルダーへの情報提供及び対話活動に活用している。</li> </ul>
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バリューチェーンにおけるGHG排出量の状況を把握する事により、当社におけるGHG排出量削減に向けた方針の決定に活用する。</li> <li>● 情報開示により社会的な信頼性を確保することで、当社への長期的投資が期待できる。</li> </ul>
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社内の関連部署より活動量を収集し、環境安全・品質保証部にて算出を行う。</li> <li>● 原材料購入データ・設備投資額・出張旅費総額・通勤費等（財務部）、製造委託先データ（各事業部）、物流データ（物流関係会社及び事業部）を収集。</li> <li>● CSR・広報室が算出データを確認する。</li> </ul>

## 2

## 日産化学株式会社

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none"><li>● 有効成分を高濃度に含有させた軽量・コンパクトな農薬製剤を供給する事で包装資材、廃棄物、輸送におけるGHG排出量の削減を行う。</li><li>● 環境性能の高い製品の開発に活用できる高機能性材料を製品として提供する。</li><li>● 環境配慮型製品の開発を推進する。</li><li>● 物流におけるモーダルシフトの推進、輸送ロット拡大及び積載効率の向上、低燃費車への更新、及びエコドライブによりGHG排出量削減を図る。</li><li>● サプライチェーンにおける排出量を把握し、製造委託先を中心にGHG排出量削減を促す。</li></ul>
⑥ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● サプライチェーン上流における実データの収集には限界があり、GHG排出量算定値の精度を向上する事が困難。</li><li>● より簡便にデータの収集、算定できる社会的なシステム作りが望まれる。</li><li>● 会社経理の更なるスマート化が必要。</li></ul>

## 3

## 日産化学株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2020年4月～2021年3月	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 購入・取得した全製品またはサービスの項目と金額	● SC-DB [5]産業連関表ベースの排出原単位（金額ベース）
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資額	● SC-DB [6]資本財の価格当たり排出原単位
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー種別ごとの調達量	● SC-DB [7]電気・熱使用量当たりの排出原単位 ● IDEAv2
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 省エネ法特定荷主定期報告書データ ● 購入した製品の重量によるトンキロ法	● 省エネ法排出係数 ● 改良トンキロ法エネルギー消費原単位 ● IDEAv2
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物の種類別処理量	● SC-DB [9]廃棄物種類別排出原単位
カテゴリ6「出張」	● 交通費支給額	● SC-DB [11]交通費支給額当たり排出原単位
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 従業員数・勤務日数	● SC-DB [14]従業員数・勤務日数当たり排出原単位

SC-DB： サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.1）

IDEAv2: Inventory Database for Environmental Analysis V2.3（サプライチェーン温室効果ガス排出量算定用）

## 4

## 日産化学株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2020年4月～2021年3月	
	活動量	原単位
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● Scope1,2に含むため算定せず	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 農薬製品販売重量	● IDEAv2
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 主要販売先のGHG排出量情報を用いて販売額から算定	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● GHG製品の販売量	
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 容器包装リサイクル法対応容器重量データ ● 廃棄処理が必要な化学製品の販売量	● SC-DB [9]廃棄物種類別排出原単位
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 賃貸物件の建物面積	● SC-DB [16]建物用途別・単位面積当たりの排出原単位
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 非該当	
カテゴリ15「投資」	● 非該当	
「その他」	● なし	

SC-DB：サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.1）

IDEAv2: Inventory Database for Environmental Analysis V2.3（サプライチェーン温室効果ガス排出量算定用）

# 5

## 日産化学株式会社

### サプライチェーン排出量算定結果

